

レフェリーから競技審判上の確認と連絡

本大会は、令和6年度（公財）日本バドミントン協会が定める競技規則、大会運営規程、公認審判員規程、および各連盟の申し合わせ事項にのっとり運営します。特に、以下のことに注意して下さい。

<競技規則>

1 サービス（第9条）

- 1-(1) サーバーとレシーバーがそれぞれの態勢を整えた後は、両サイドともサービスを不当に遅らせてはならない。
- 1-(2) サーバーのラケットヘッドの後方への動きの完了した時点がサービスの始まりで、サーバーのラケットヘッドの前方への初めての動きを不当に遅らせてはならない。
- 1-(6) サーバーのラケットで打たれる瞬間にシャトル全体がコート面から 1.15m以下でなければならない。（シャフトが下向きでなくてもフォルトではない。）

2 プレーの継続、不品行な振舞い、罰則（第16条）

3 プレーの中断 主審が認めた場合、あるいはレフェリーが主審に指示した場合。

4 プレーの遅延 プレーヤーはどんなことがあっても、体力や息切れを回復できるように、または、アドバイスを受けるためにプレーを遅らせてはならない。

5 アドバイスとコート进行に離れることに関して

- (1) シャトルがインプレーでないときに限り、プレーヤーはマッチ中、アドバイスを受けることができる。（大会運営規程第25条参照）
- (2) プレーヤーはインターバルを除き、マッチ中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。（ただしラリー中にコートサイドのラケットと交換しても構わない。）

7 違反に対する処置 (1)① 警告(イエローカード) (2)③ フォルト(レッドカード) (2) 失格

<大会運営規程>

- 3 服装については、第23条によるものとする。また、社会人・大学生は所属名、高校生は学校名、小中学生は所属名と氏名の背面表示またはゼッケン(4点留め)をすること。その際、文字列各行の高さは6～10cm、横30cm以内とする。（第24条参照）
- 4 個人戦において試合を棄権した選手は、それより後の同大会でエントリーしている種目全てにおいて出場できない。但しレフェリーによって認められた場合はその限りではない。
- 5 審判員の判定に対して疑問がある場合は、次のサービスがなされる前に、個人戦ではプレーヤーが、団体戦の場合は当該プレーヤーと監督に限り「質問」が認められる。（第36条）
- 6 競技進行の都合で、試合時間やコートを変更する場合がある。（付録2-1参照）
- 7 表彰式には原則として第1位～第3位まで、競技終了後の閉会式で行うものとするが、帰郷時間、交通事情等でやむを得ない理由がある場合、閉会式前に授与を行う場合がある。しかし、少なくとも第2位までは開催地に配慮して閉会式に参加することを義務づける。（付録1参照）

<公認審判員規程>

8 試合前後・中の注意事項(第5条)

- 5-(2) 練習時間の計測は主審が審判台に座ってから始まり「ラブ オール プレー」のコールで終わる。その際、「レディー トゥ プレー」をコールし、プレーヤーがマッチ開始の準備をするよう指示する。
- 6-(7) インターバルではどちらのサイドも同時に2人までコートに入ってきてよい。その際、主審が「…コート20秒」とコールしたらコートを離れるものとする。
- 9-(5) プレーヤーが線審に影響を及ぼすまたは脅迫しようとする行為は不品行な振舞いと判断する。
- 9-(6) プレーヤーが故意に、自分の汗でコートやその周辺を汚した時は不品行な振舞いと判断する。
- 9-(7) ラリー後の激しい行為(握った拳をあげる、相手に向かって叫ぶ)は不品行な振舞いと判断する。
- 12-(2) コーチはマッチにふさわしい服装でのぞむこと。（運動靴、長ズボン、チームユニフォーム等）
- 12-(3) コーチは許可されたインターバルの間を除き、指定された椅子に着席するものとし、マッチ中、コートのそばに立ってはいけない。
- 12-(6) コーチはマッチ中、連絡やコーチングのためにモバイル機器を使用してはならない。
- 12-(7) コーチによりプレーが混乱させられた場合は、レットとし、レフェリーが警告する。
- 14 マッチ中にケガや事故が生じた場合は、主審の判断によりマッチを中断する。その際レフェリーが呼ばれた場合、その判断に従うこと。出血の場合、止まるまで再開を遅らせる。
- 15 マッチ中、コート周辺でプレーヤーの携帯電話が鳴った時は不品行な振舞いと判断する。